

お志茂の水除け

前沢川の土石流から屋敷と田畑を守る

前沢川は土石流の頻発する河川で、下流右岸の田島地区新井は、たびたび災害に見舞われた。前沢川の土石流の氾濫原にあったと考えられる松村家（屋号お志茂・松村理兵衛の分家）は、水害から屋敷や、下流の田畑を守るため、上流側に向けて鋭角に石を積み船形にした水除けを造った。場所は、理兵衛堤防の西250mの位置にある。



鋭角に組まれた石積みの水除け



お志茂の水除け

復元された理兵衛堤防



前沢川の控えの堤防

information

□ **アクセス**
松川ICから5km
車→10分

□ **所在地**
中川村片桐



前沢川の 土石流

前沢川の 堤防

前沢川の上流部は、岩石が風化し崩れやすい市田花崗岩で、山間部を下る土石流は、流域に大きな被害をもたらした。中でも1923（大正12）年の土石流災害では飯田線鉄橋が破壊され、旧片桐村役場や住宅25戸が流失し、集落が上段域へ移転した。

前沢川の本堤防は、江戸時代の絵図にも石積みの堤防や聖牛が組まれたことが描かれており、天竜川への合流点付近で50mに渡り石積みが残る。控えの堤防は、耕地側に40mほど引き下げた場所にあり、前沢川合流点から上流に260mに渡り残る。堤防の保存状態は良く、1923（大正12）年の水害時にも、この堤防が近隣の家を救った。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)